

霊庇閣〔憾満ヶ淵〕

この小さな祠には、護摩行（不動明王に祈願を行う儀式）のための、護摩壇が格納されています。儀式の間は表面の小さな窪に火を灯し、そこに願いことが書かれた紙や護摩木を焚き上げて、願い事を不動明王に送り届けます。1654 年、晃海大僧正は霊庇閣に籠り国土の平和を祈願したとされています。1902 年には、大洪水が発生。対岸の高さ二メートルにわたる不動明王像と共に、もともとあった閣は破壊されてしまいました。現在の閣は 1971 年に再建されたものです。

霊庇閣の川を挟んだ対岸にある石には、大きく窪んだ部分に“憾満”（不動明王の真言の最後の言葉）という梵字があり、これは晃海大僧正と同時代の僧侶が刻んだものです。